

これだけは譲れないこだわり

ひのめばえ保育園

＊職員同士でも、子どもに対してもニックネームや名前を短縮して言わないようにしています。

ニックネームで呼ばれている人は他人から人気がある、親しみがある印象もあり、ニックネームで呼ばれない人にとってはなんだか淋しい気持ちなのでは？と考えています。

基本的に一人一人の人格を尊重するため、正しく名前と呼ぶことを大切にしています。

子どもに対しても、しょうた君をしょうちゃんとか、みゆきちゃんを、みーみと呼んでいるのを他の保護者の方が聞いたら、気にしない人もいれば、気になる人もいるので、当園ではニックネームも名前短縮も無して統一しています。出席をとる際、これがとても有効だと感じています。

家庭で短縮名やニックネームで呼ばれている子は、入園してお名前を呼ばれても反応が薄いですが、きちんと呼ぶことを習慣にすることで、乳児でも自分の名前を覚え、親しみをかんじていると思います。

＊保護者に対しても、職員間でも敬語を使って話しをするようにしています。親しくなるとつい敬語を忘れ話が盛り上がることはありがちですが、慣れ合いになりすぎて、伝えるべきことが伝えづらくなってしまうようにと思っています。保護者に対してもフレンドリーに話したいという保育士もいますが、話やすい保護者にはフレンドリーになれば、他の方がいい気持ちかもしないと思うからです。どんな時でも丁寧な言葉で対応をしていきたいと思っています。

丁寧な言葉が保護者の雰囲気も良くしているように感じています。

＊常勤、非常勤互いに敬意をもって接するように伝えています。常勤が上の立場とは考えてほしくありません。非常勤職員がいるから、常勤が保育に専念でき、作業時間がしっかり確保できています。互いの立場をわきまえたうえで、感謝の気持ちと敬意をもって欲しいと思います。



子どもに対しても、保護者に対しても、職員に対しても、人格を尊重しながら接することが大切です。

皆の笑顔に囲まれて

しせい太陽の子保育園

保育内容や子どもへの対応について職員との確認を行う

○保育園という職場に長く働き、時代の流れでしょうか、保育の考え方も変わってきて、また職員についても園の方針や保育目標等を再確認するため会議や園内研修等を行っています。当園ではモンテッソーリ教育を取り入れています。学んだ職員によって他の職員に理論や教具の取り扱い方を伝えています。

それぞれの職員が色々な経験を重ねてきていることを感じつつ子どもにとって良い保育をと皆で考えて活動をしています。

○子ども一人一人に優しく言葉かけをし、寄り添って対応していくことで集団の中でも安心して過ごせるよう信頼関係を作っていくことが大切です。

保育士としての思いやりや、細かなことに気づき、先輩の保育士の姿を見て学んでいけると良いですね。身の回りのことを観察して何が必要なのかを考えていくと日々楽しく過ごしていけるのではないのでしょうか。

子ども達の成長の姿がみられることはとても嬉しいことです。

保護者とのつながりの大切さ

○園での様子などは連絡帳やホームページのダイアリー等を使っています。また、毎月園だよりでクラスの出来事や月の目標を載せています。

登降園時に口頭で家での様子を聞いたり、保育園の様子を伝えたりしています。このようにして、保護者とのコミュニケーションを大切に、保育活動へのご協力を得ながら保育を進めています。



保育士として、また、人間として身の回りの細かなことに気付ける感性は、より良い保育を発展させる要となりますね。

保育士が長く仕事を続けられる環境整備

栄光ひまわり保育園

保育士の中には子育てをしながら仕事を続けている職員も多く、家庭と仕事の両立や急な休みなど保育現場の環境も厳しくなることが多くあります。当園は小規模保育園のため園舎に各クラスの仕切りがなくクラス担任以外の職員も全クラスの子どもの様子や家庭状況などを共有し関わることで、職員の急な休みにも対応できる環境整備を行っています。それ以外に保育現場の課題もあります。

〔課題〕

- ・書類作成、行事、おもちゃの消毒、会議等多忙な業務
- ・業務量の割り振りなど他の職員への頼りづらさ
- ・アレルギー児や配慮の必要な子ども、保護者への対応
- ・子どもたちから常に目が離せず、休息をとるのが困難な環境
- ・地域の住民への配慮

〔改善策〕

この問題を解決していく現場での改善策として

- ・行事や製作物、各書類の軽減など業務を見直す
- ・クラス担任だけでなく、園全体でクラス状況・行事の職員会議や週案会議を行い情報共有をし複数人で対応する
- ・フリーの職員を配置し休暇の取りやすい環境を整える
- ・休憩室での休憩時間を確保する

など園長が現場に入ることで職員の話を聞き状況を把握し、共有しています。

保育士一人ひとりが楽しく、希望をもって長く仕事を続けられる環境を整えていかれるよう、今後も働き方改革をおこなってまいります。



保育士一人ひとりが楽しく働くことが出来る“働き方改革”をおこなって行きましょう。

豊かな保育環境に恵まれて

しんさかした保育園

『豊かな保育環境に恵まれた日野市で、子どもたちと新しい

発見をしてみませんか？』

さまざまな活動が行われる保育園の毎日で、子どもたちと出かける散歩は私にとって好きな時間の1つです。子どもたちと手をつないで園外の自然を見たり、たくさん話をしながら歩いたり、園内で過ごす時間とは違った発見、子どもたちとのかわりができるからです。自然や駅、高速道路と子どもたちの好きな場所がたくさんある日野市では、散歩の楽しみ方も色々です。園周辺を歩きながら畑の作物や工事中の働く車を見つけて立ち止まり、みんなで「〇〇だ!」と観察した乳児クラス。遠くまで歩けるようになり、保育園近くの山を登ったり、高速道路の上から走る車を見に行ったりした幼児クラス。さらに大きくなると、クラスの友達の家を理解している子も増えてきます。川沿いを歩くとコイやカモが泳いでいたり、線路沿いを歩くとたまに走る「特急あずさ」に大興奮したり…。日々の保育と同じように、毎回さまざまな発見や経験をさせてくれる日野市の環境が、子どもたちも私も大好きです。

皆さんの日野市おすすめスポットはありますか？同じものを見ても、人によって感じ方はさまざまです。日野市の良いところと一緒に子どもたちに伝えられる仲間が増えるといいなと思います。



《高架橋から見下ろす高速道路》



《緑地の中の遊歩道》



日野市の恵まれた自然の中で、子ども達と保育士が共に発見したり、共感したりしながら生活していくことは、子ども達の経験を豊かにします。

豊かな自然環境の中で

日野わかば保育園

日野市は自然環境に恵まれたすてきな街です。東西は京王線・JR、南北は多摩都市モノレールが走っています。バスの本数も多いです。中央高速・圏央道のICも近く、遠出にも便利です。多摩丘陵には多摩動物公園・高幡不動尊・百草園・平山城址公園があります。川遊び



も楽しめる清流「浅川」「多摩川」、用水には川魚が泳いでいます。自然が豊かで、遠くには富士山もみえる美しい景色が広がる街です。

田畑では名産の多摩川梨・ブルーベリー・トマト・ぶどう等地元の果物やダイコン・ジャガイモ・サツマイモ等の野菜の栽培も行われています。保育園でも、園児が畑で収穫した新鮮な野菜を使った調理活動も行われています。「日野産のトマトを園で食べたのをきっかけにトマトが食べられるようになりました。」「保育園で沢山自然に触れたお陰で、今自然科学部で学んでいます。」「多摩丘陵で沢山遊んだので足腰が鍛えられ、今も陸上頑張っています。」等保護者の方や卒園児から、嬉しい報告を頂いています。保育園での体験が子どもたちのその後の意欲や喜びにつながっています。



交通機関の利便性が良く、多摩川や浅川があり自然に恵まれた日野市は、子どもも大人も伸び伸びと楽しく成長していくことができますね。

日野市で働きましょう

たまだいら1・2SmileHouse

『日野市は子どもや保育者に優しくあたたかい街』

私たちの働く園の周りには、以下のように様々な公園が徒歩圏内にあり、目的やねらいによって散歩先を選んで日々保育を行っています。

《固定遊具の豊富な第一公園》



《四季折々の自然物に触れられる第六公園》



その他にも、敷地が広く、走ったり集団遊びをしたりできる公園や坂道があり、登ったり降りたりして四肢の発達を促せる公園もあります。

私たちの園自体には園庭がありませんが、日野市は自然豊かな環境のため、子どもたちにより多くの経験をさせてあげることができ、保育者としてのやりがいを日々感じています。

また、子どもたちとの散歩中には、通りかかる高齢の方や地域の親子・公共施設の職員など地域の方々が子どもたちに優しく声をかけてくれたり手を振ってくれたりと気にかけてくれる場面が多くあり、安心して散歩に出掛けることができます。

日野市はこのように地域の方々の子どもたちを大切にしようという雰囲気を日頃から感じることでできるあたたかい街です。



豊かな保育環境に恵まれ、子ども達に優しく
温かい日野市で、一緒に楽しく働きませんか。

楽しみながら保育をするために

みさわ保育園

自分が幼稚園に通っていた頃から「将来の夢は保育士」と言っていたほど、幼いころから小さい子の面倒を見ることが好きでした。

言葉の通りに保育士になることができましたが、やはり現場は「子どもが好き」だけではやっていける職業ではないことを痛感しています。子どもが安全に過ごすことができるように見守るための視点、子どもの個性を活かすためのかわり方、クラスをまとめていく力、保護者とのかわり方等、日々保育士として求められている役割を必死にこなしつつ保育にあたっています。

そんな時に迎えた発表会。ナレーターをする私に、先輩保育士から「保育士が楽しめれば、子どもたちも一緒に楽しむことができるからね。」と声を掛けられ、緊張で固まっていた肩の力がふっと抜けました。私が自然体になることで、子どもたちの笑顔も増え、全員が楽しめる発表会となりました。子どもと共に活動を楽しむこと、この基本を教えてくださいました。

保育士として、日々悩むことも多々ありますが、子どもたちが楽しく活動に参加している姿に元気をもらい、また次の楽しい活動を考える力になっています。先輩からいただいたアドバイスを胸に刻み、より良い、より楽しい保育の実践を目指していきます。



忙しさに追われる中でも、時には童心に帰り、初心を思い出して、子どもと共に楽しみましょう。

一緒に学べる幸せ

栄光保育園南平分園

最初に勤めた園からの異動が決まった時、園長先生から「人生、何事も勉強よ!」との言葉をいただきました。それから、もうずいぶん経ちました。その間、人間関係で辛いこともありました。大失敗をして落ち込んだことも、思うようにいかず泣いたこともありました。そんな時この言葉に何度も力をもらい、「勉強になったんだ」と前を向くことが出来ました。今でも私の中で大切な言葉です。

そしてこの言葉は、子どもたちの姿にも重なる言葉なのだと改めて感じています。

子どもたちは、最初はできなくても、真似て覚える。失敗してもそれを糧にし、自分の周りの全てから学んでいきます。

私たち保育士も、子どもたちのリーダーとしてクラスの先頭に立つだけでなく、前向きに進んでいく子どもたちと並んで「一緒に」様々なことを学び、「共に」成長し合っているのではないのでしょうか。これは本当に幸せなことだと感じます。これからも、「何事も勉強!」と前向きに、子どもたちと一緒にたくさんのことを学び合い、一緒に成長していけたらと思っています。



「何事も勉強」は、前向きになれる言葉ですね。

自信をもって保育に取り組んでください

幼児教育・保育アドバイザー

2024 年度から、幼児教育・保育アドバイザーとして幼稚園・保育園の約半数 25 園の保育参観・運動会や発表会の参観・保護者会へ参加をして、幼保小連携教育の実態を知るとともに、各園・各小学校に、その重要性を伝えてきました。

今後の小学校側の課題は、指導要領総則にもあるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することです。幼稚園教育要領等（3要領・指針）に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施することで、児童は主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となることでしょう。

保育園や幼稚園は、かつてのように、「45分間座れるようにさせてほしい」「自分の名前を読めるようにしてほしい」「時計が読めるようにしてほしい」等々の小学校からの前倒しの要望に応えるものではありません。最後の日まで、「日々、自発的な活動としての遊びに没頭する保育」を心掛けてください。

自信をもって保育に取り組んでください。



子ども達の未来のために、日々、自発的な活動としての遊びに没頭する保育を、もう一度見直してみましょう。